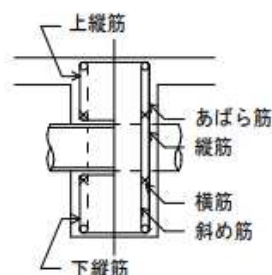
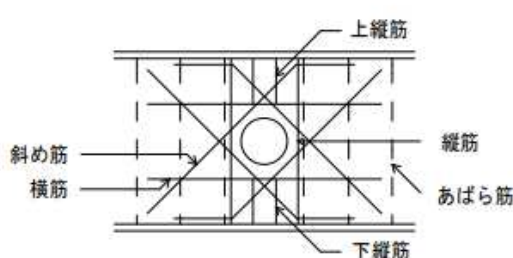


1 1 梁貫通孔その他の配筋

1 1. 1 梁貫通孔の配筋

- (a) 梁貫通孔補強筋の名称等は図 1 1. 1 による。
 - (b) 孔の径は、梁せいの $1/3$ 以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
 - (c) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より $1/3 D$ の範囲には設けてはならない。
 - (d) 孔は、柱面から、原則として、 $1.5 D$ (D は梁せい) 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
 - (e) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の 3 倍以上とする。
 - (f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
 - (g) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図 1 1. 2 による。
 - (h) 孔の径が梁せいの $1/10$ 以下、かつ、 150mm 未満のもの（軽微な開口）で鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
 - (i) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 $1-13\phi$ のリング筋を取り付ける。
- なお、リング筋は、溶接金網に 4 箇所以上溶接する。
- (i) 溶接金網の割付始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。



H 形